

登山月報

第7回山岳スキー競技日本選手権大会 報告	1
平成24年度競技委員総会報告	3
知りたいこと…、伝えたいこと…、「助論」に託して	5
日・パ国交樹立60周年記念レセプション	5
駐日パキスタン大使昼食会	5
第42回 Mountain World	6
日本の山岳切手シリーズ⑦	7
お国自慢の山⑥	7
大韓山岳連盟創立50周年記念式典	8
JMA、寄贈図書、編集後記	8

2012年 第7回山岳スキー競技日本選手権大会 報告

去る4月7、8日、昨年東日本大震災の影響で中止された山岳スキー競技日本選手権大会が2010年大会と同じ長野県小谷村の栂池高原で開催された。事前登録は前回より多い51名であったが、怪我や個人的理由から出走しない選手が続出し最終的にレースに出たのは47名となった。その内6名が韓国から3名が中国からの選手であった。

大会前日まで降雪が続きコース作りに苦労したが、レース当日は快晴で最高のレース日和となった。大量の降雪による雪崩の危険を考え一部コースを短縮してレースが実施された。男子フルコースで総距離11.6km、標高差1400m。女子と男子ショート、ジュニアは総距離10.1km、標高差1170m。前回の大会のコースにほぼ準拠したルートとなった。

このレースは世界レースカレンダーにも登録されたISMF国際連盟公認レースで韓国大会と並びアジアでの数少ない大会として評価され、ISMFの公式ホームページでもレースレポートが紹介された。

レース全体の印象は、選手のレベルが上がっており上位10選手の走りやテクニックは大きく進化している。小川壮太選手は初参加で1位と2分25秒差の2位は実に立派な成績である。上りではtopの藤川選手にほぼ肉薄し、上りから下りへのトランジションや滑

降で藤川選手との差が開くという展開であった。女子2位の田近郁美選手も大会連覇中の強豪間瀬ちがや選手に1分10秒差の2位それも借り物のやや重いスキーとブーツでの初参戦でこの成績は高く評価できる。上記小川壮太選手は男子トレラン、田近郁美選手はマウンテンバイクと他のアウトドア耐久競技の有力選手で、彼らが参入し一気に上位に入ったのは、今後の競技普及にヒントを与えてくれた。また用具メーカーも新たな企業がレースの見学に訪れるなど明るい動きがあった。今大会の上位入賞選手は来年の世界選手権大会派遣選手となるが今回の10位までの選手はほぼ全員これまで世界選手権に参加しており選手層に厚みが出てきたと言える。

他に今回の大会で特筆すべき点は、ジュニアのレースが成立したことである。これは韓国から2名のジュニア選手が参加した為である。国内でのジュニア選手発掘も次シーズンの課題である。

一般レース愛好家対応では若干の課題を残した。それはレース開始時間が予定より45分遅れて実走時間が短くなってしまい完走者が減ったことである。これについてはゴンドラ運営者も事情を理解しており、またコース短縮を考えるなどして次回以降改善が期待される。



もう一つ付記しておきたいのは聴覚障害のある選手が参加したことである。申請時に、障害のある旨を伝えられたが、スタッフ一同配慮をもって対応できたと思う。今後も門戸を広くし、手話通訳の手配などさらなる支援を考えたい。

インターネットでの露出が増えたことも今回の特徴である。レースの詳細をプロビデオカメラマンが撮影編集した13分の映像がYoutubeに公開されているので関心のある方はぜひ見ていただきたい。

<http://www.youtube.com/watch?v=19cIBsUZCq8>

他にも参加選手のブログや、役員で来て下さった方のブログなど多くのサイトで紹介されたのは嬉しい。これらのリンクについては山岳スキー競技大会の公式サイト <http://www.jsmc.jp/xoops/> を参照してほしい。

今シーズン、北海道札幌で、藤川選手などが中心となり、ミニレース大会を4回実施した。ようやく樽池以外でもこの競技の普及の端緒が開かれたといえる



が、次シーズンには、他の地域でも山岳スキー競技のミニレース等を企画してみたい。トレイルランニングがこれだけ隆盛を極めているのだから、冬のトレランである山岳スキー競技にも発展の可能性は大いにあるのではないだろうか。

最後にご多忙の中、神崎会長、八木原副会長、本木顧問、寺内常務理事が駆けつけてくださったこと。毎年ながらの宮本会長以下長野県山岳協会の全面協力に加え石川、富山、福井3県の岳連から応援を頂いたことに感謝申し上げる。

(競技部山岳スキー競技小委員会 笹生博夫)

大会リザルト

■成年男子1

1	藤川 健	JPN	1:38:27.1
2	小川 壮太	JPN	1:40:52.4 +0:02:25.3
3	山田 誠司	JPN	1:41:11.2 +0:02:44.1
4	三浦 裕司	JPN	1:46:03.7 +0:07:36.6
5	伊藤 吉昭	JPN	1:48:09.5 +0:09:42.4
6	石橋 恭	JPN	1:49:10.7 +0:10:43.6
7	浦野 裕之	JPN	1:49:16.7 +0:10:49.6
8	平田 伸也	JPN	1:51:48.0 +0:13:20.9
9	PARK Jongil	KOR	1:58:39.9 +0:20:12.8
10	佐藤 佳幸	JPN	2:03:13.7 +0:24:46.6
11	SHIN Dutak	CHN	2:12:41.9 +0:34:14.8

■成年男子2

1	福迫 順一	JPN	2:13:24.8
2	片岡 泰彦	JPN	2:25:27.2 +0:12:02.4

■成年女子

1	間瀬ちがや	JPN	1:51:02.8
2	田近 郁美	JPN	1:52:13.1 +0:01:10.3
3	加藤 倫子	JPN	2:14:36.7 +0:23:33.9
4	KIM Youngmi	KOR	2:15:13.3 +0:24:10.5
5	GWAK Mihee	KOR	2:20:05.8 +0:29:03.0
6	吉野 晶子	JPN	3:01:26.0 +1:10:23.2

■男子テレマーク

1	筑井 祐一	JPN	2:56:40.8
---	-------	-----	-----------

■少年男子

1	PARK Jiwon	KOR	2:42:56.8
---	------------	-----	-----------

■NESチャンピオンシップ2012開催

2011年から北丹沢・山梨東部の指定3大会で【NESチャンピオンシップ】を開催します。参加条件は、指定大会の出場&完走です。タイム合計で男女別上位3位を表彰します。

- ◆第1戦：道志村トレイルレースロング (2012年5月13日(日) 開催)
- ◆第2戦：北丹沢12時間山岳耐久レース (2012年7月8日(日) 開催)
- ◆第3戦：上野原トレイルレース (2012年9月9日(日) 開催)

3大会完走タイムの合計時間で順位を決めます。着順は関係無く、合計タイムの少ない男女別上位3位を表彰します。完走者には完走証、オリジナルフィニッシャーTシャツを進呈します。ファイナルパーティー (10月予定) 開催時に表彰式を行い、表彰並びに完走証、Tシャツ授与を行います。

主催：神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

平成24年度競技委員総会報告

平成24年度の競技委員総会が4月1日(日)に東京の日本青年館ホテルの会議室で開催された。当日は34都道府県の委員が出席。(委任10県、欠席3県)

はじめに、神崎会長より、「日本山岳会は今年公益社団法人になったが、日山協はじっくり組織作りをして、来年度公益社団法人を目指す。公益社団法人は理事会の委任を認めないなど理事の責任が重くなる。これは社会や登山界全体に責任ある組織として、今後は生活に密着した形で労山や日本山岳会などと協力しながら、リーダーとして登山界を牽引していかなければならない。」と、挨拶。

続いて、高山委員長が議長となって議事に入った。

議案1 平成23年度競技委員会事業報告

競技委員総会、競技委員会、競技運営事業報告、について、高山委員長から説明があった。

次に、競技力向上事業について、北山副委員長より説明があった。

2年毎に開催されていた世界選手権は、昨年イタリア・アルコで開催されたので、本来ならば来年の開催になる筈であったが、オリンピックを意識してか、今年もパリで開催される。その後は2年毎に開催する形になる。

次に、トレイルラン小委員会から宮地常任委員の代理で出席した平林氏がトレイルラン小委員会からの提起を説明した。

Q:(大阪府岳連)具体的な指針が明確になっていない。もっと色々な現場から意見を吸い上げる必要がある。

A:(内藤副会長)トレイルランの実態調査をする事でこれまで進めて来た。今後はこの様な形を理事会に通しながら進めてゆきたい。

Q:(奈良県岳連)死亡事故などに対して日体協は問題にしているのか。

A:(高山委員長)日体協は静観している。更に、どの競技団体がトレイルランを統括するのか? 陸連か? 日山協か? という状況だ。

次に毎月の競技常任委員会報告は滝内常任委員が説明した。

第66回 おいでませ山口国体開催結果報告(高山)の後、山口県の古林常任委員より補足説明と御礼が述べられた。

ブロック別研修会報告について、多くのブロックで国体競技運営研修の参加者が高齢化している。実務に関わる監督などにも参加を呼びかけて欲しい。また、資格認定手続が遅れているが、今後日山協として改善したい。さらに、選手登録、ブロック大会の結果報告を中々上げてこない岳連が多く、基本的にはブロック大会終了後10日以内に日山協へ提出して欲しい。(松田常任委員)

中川事務局員より、認定証の未発行についての説明があり、これまでのまとめ方は登録と入金の確認が上手く出来てなかったため、今後はこれらを確認しやすい方法で進める。現在まとめている状況で、5月の総会までには全て終了したい、と述べた。あわせて、遅れていた昨年度までの審判員認定証の交付を行った。

Q:(大阪府岳連)近畿ブロック研修会において、問題があったと聞いているが、その説明が欲しい。

A:(高山委員長)現状では連絡が取れない状況で具体的な事項については不明な部分もあるが、2日目のC級審判研修について一旦は中止としたが、時間的な都合もあり、丁度参加していたA級審判員に引継ぎをお願いし、多少遅くなったが、テストも実施された。(1人だけ帰った方がいたが、これについては日山協が責任を持って、時間的な調整を行い既に実施した。)

☆議案1は全会一致で承認された。

議案2 平成24年度競技部事業計画

競技会・研修会の開催、国体山岳競技の主管について説明があった(高山競技委員長)

競技運営に関して、IFSCルール改正による説明を山本常任委員より行った。

西原常任委員から、ドーピング防止への取組説明とこれまで国体参加に際して配布されていた、「ドーピング防止必携書」が、今後は1枚のカードに変更になるので、監督・選手にはその旨伝え、大会開催中には忘れないようにして欲しい、と要請。

競技力向上計画について、北山副委員長より説明があった。

I F S C リードワールドカップ2012 I N Z A I 大会について、目次常任委員より準備の進捗状況の説明があった。

☆議案2は全会一致で承認された。

議案3 第67回ぎふ清流国体準備状況報告について

リハーサル大会及び本国体での変更点について説明。総合開会式に参加しないと罰則の対象となる。ボルダリング施設については本国体開催前の事前練習は出来ない旨、報告。(清水・岐阜市国体実行委員会、野村・岐阜山岳連盟)

Q：(長崎県岳連)後催県からの視察について

A：予め実行委員会へ申請していただきたい。

Q：(千葉県岳連)ゼッケンは全てユニホーム縫付けるとの事だが、粘着性はないのか。

A：粘着性はない。

Q：(群馬県岳連)リードジャパンカップまでに、選手登録が出来ない時はどうするのか。

Q：(中川事務局員)先ず、大会への申込を行なえば、選手登録は事後でもかまわない。事務処理上、参加申込と振込みは期日厳守でお願いしたい。

☆議案3は全会一致で承認された。

議案4 次期開催県準備状況について

第68回 東京国体について準備状況説明(西嶋常任委員)

第69回 長崎国体について準備状況説明(松崎委員)

☆議案4は全会一致で承認された。

議案5 日山協競技委員会の組織改編について

内藤副会長より、新しい公益法人に移行することにより、日山協の各部、各委員会もそれに伴う形で組織を変えていかなければならない。競技部も他の部、委員会と同様、頑張っって欲しい、との説明がされた。

☆議案5は全会一致で承認された。

議案6 平成24年度(岐阜国体)からの国体山岳規則集の一部改訂について

I F S Cルール改訂による変更点の説明及び選手・監督確認カードの変更について説明(山本常任委員)

Q：(大阪府岳連)要望だが、読み取りやすい文章で表記して欲しい。

議案6は全会一致で承認された。

議案7 平成24年度日山協公認クライミング審判員・ルートセッター・競技運営員の認定、登録について

中川事務局員より、先ほど説明したように、速やかに手続を行ないたい。また、配布資料で不明な部分は、総会終了後個別に対応する、旨説明があった。

☆議案7は全会一致で承認された。

議案8 日体協公認山岳指導員(クライミング指導員)制度について

永井指導委員長より、東京国体から監督は全て指導員資格を有しなければならない。これに間に合わせる為には平成24年度中(平成24年4月～平成25年3月迄)に受講しないと難しい。日体協への申請は6月中なので、それまでに少なくとも受講希望者の名簿を提出する必要がある。

補足：日体協国体委員会情報では、今後、下記2項目のうちのいずれを公認資格取得者と同等の者として扱うかについて、各中央競技団体に調査し、その結果を都道府県体協等へ通知することになった。

〈第68回大会・本大会〉

①「平成24年度公認資格養成講習会の修了者(平成25年10月1日付認定予定者)」

②「平成25年度公認資格養成講習会の受講者」

☆議案8は全会一致で承認された。

議案9 平成24年度選手強化及び強化選手の選考方法について

北山副委員長より説明がなされた。

☆議案9は全会一致で承認された。

議案10 第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実施要項(案)

高山委員長より、実施要項案について説明があった。特記すべきは、これまで各都道府県代表人数は男女各2名以内としてあるが、選抜を行なった結果、学校団体戦出場校が男女それぞれにおいて存在しない都道府県に限り、学校団体選出場の目的で男女各1名を各都道府県推薦選手に追加できる、とした。

☆議案10は全会一致で承認された。

議案11 国体山岳競技地区別出場都道府県割当数について

高山委員長より、表に基づき説明があった。

☆議案11は全会一致で承認された。

以上をもって、平成24年度日山協競技委員総会のすべての議案が承認され、閉会した。

最後に、神崎会長より、「競技は皆と共に作っていくものです。資格を取得してもその後の活用についても対応していかなければなりません。日山協の予算の90%は、補助金や寄付金等で成り立っています。加盟料は10%程度です。競技に関わる経費は予算全体の50%程にもなる。それだけ期待もあるので、全国の競技委員長には頑張っって欲しい」と、閉会の言葉とした。(競技担当常務理事 寺内丈行)

知りたいこと…、伝えたいこと…、「助論」に託して

(社)日本山岳協会 会長 神崎忠男

会長を拝命して、不慣れ、経験不足など会長としての適性に不安を残すなか、各県岳連(協会)の関係者のご支援、ご協力により一年が過ぎようとしています。

個人的な焦りもあって、先般の理事会において、早く日本山岳協会の現状を知り、組織に馴染共に皆で歩みたいと勝手ながら「助論」と題してアンケートをお願い致しましたところ、12通のご回答がありました。

内容については紙面の関係で詳細のご報告は出来ませんが、自分にとっては大きな収穫となりました。ご回答いただいた方々に心より深く感謝申し上げます。

要点については、文言こそ異なりはあっても、言わんとする内容は同じ様なものが多く、日本山岳協会のこれからを案じ、人材の育成、財源の確保、県岳連との連携、連帯、高齢化、若年化、活性化、情報化、加盟団体の減少、事業や制度の見直しなど運営基盤の確立、執行体制、機構改革の整備といった助論のなかに、課題点、問題点がかなり浮彫りとなりました、また提言としては「若い人に受けるためには…」「共済会員の増強をはかるには…」「遭難事故を減らすために…」とか自然保護活動、国際交流、競技登山の在り方や今後の取り組み方など、幅広い意見は大変だという思いの

ほか勇気づけられた気がします。これらを運営、活動のバイブルとして会長としての責務、組織としての実践を果たしていきたい。

そして、日本山岳協会としての理念や目的を定め、理事会、県岳連、委員会など関係者が一つの方向に向いて、それぞれの最善、最高の責務を果たす中に、明日の日本山岳協会があると信じています。

公益社団法人として平成25年の出発を準備するなか、理事の責任は重くなると同時に、各担当の責任、使命感が重要となり、今までのように自分の組織だけのこと考えていけばいい時代は終わり、社会の一員としての新生日本山岳協会として出発しなければならない今が重要な時期であることをそれぞれに受け止めなければならない。これからの日本山岳協会の真価が問われるのは、すべて私たちの姿勢や行動にかかってくることも意識しなければならない。今回の「助論」はそういった意味においても私には心強いバイブルとなりました。

ご回答いただいた各位には重ね重ね感謝申し上げます。

日・パ国交樹立60周年記念レセプション

1952年4月に日本とパキスタンの国交が樹立されてから60年を迎えた。それを記念して4月26日に都内のホテル・オークラ東京の平安の間で記念レセプションが盛大に催された。

ソプラノ歌手の新藤昌子さんによる両国の国歌斉唱で祝宴の幕が上がり、先ず、15代目駐日パキスタン大使となるヌール・ムハマド・ジャドマニ大使が主催者挨拶を行い、続いて来賓代表として衆議院副議長で日パ友好議員連盟会長の衛藤征士郎代議士(日山協最高顧問)が挨拶を述べられた。

続いて60周年記念事業の一つクリケット・フェスティバルに参加するパキスタンのクリケット・チームが紹介された。試合は4月29日に栃木県佐野市の田沼高校で日パ対抗戦が行われた。

歓談の途中で玄葉光一郎外相も駆けつけ祝辞を述べた。外相からは東日本大震災への支援や先般ギルギットに閉じ込められた日本人観光客の救出についてのお礼が述べられた。

会場にはパキスタンと関りのある政財界人や駐日外交官など大勢出席され、なかでもアントニオ猪木氏やデヴィ夫人(デヴィ・スカルノ)は人気の的だった。

(記 尾形好雄)

駐日パキスタン大使昼食会

4月13日に東京の駐日パキスタン大使館でヌール・ムハマド・ジャドマニ大使主催のナジール・サビール氏の来日歓迎昼食会が行われた。エベレストやK2に登頂しているナジール氏は、パキスタンの国民的英雄で今回は、3月24日に代々木公園で開催された

パキスタン・バザールでの講演などのプロモーションで来日。昼食会にはナジール氏と繋がり深い日本の登山家など22名が出席された。席上ジャドマニ大使は、今年は日本・パキスタン国交樹立60周年の記念すべき年であり、日本とパキスタンの一層の親善交流を深めていきたいと述べられた。

(記 尾形好雄)

第42回 Mountain World

第20回ピオレドールは サセール・カンリⅡ峰とK7西峰

池田常道

3月号にノミネート6隊を紹介した第20回ピオレドール賞は、3月24日、フランスのシャモニで審査結果が発表され、アメリカ隊のサセール・カンリⅡ峰初登頂とスロヴェニア隊のK7西峰北西稜初登攀が受賞した。このほかノルウェイ隊のトーレ・エガー南壁新ルート登攀に審査員特別賞が贈られ、永年登山界に貢献した人物に贈られる功労賞はフランスのロベール・パラゴに決定した。

●サセール・カンリⅡ峰(7518m)初登頂



サセール・カンリⅡ峰のアメリカ隊。

東部カラコルムにあり、未踏峰としては世界第2の高さを誇る。マーク・リッチー、スティーブ・スウェンソン、フレディ・ウィルキンソンの米国トリオが昨年8月21日～25日、南西壁(標高差1700m)をアルパイン・スタイルで登った。1985年に初登頂したと言われた日印合同隊が西の肩で終わっていたことが判明したため、これが初登頂となった。受賞理由は「クラシックな探検的アルピニズムを現代的手法で実現した」点が注目されたもの。ルート名はThe Old Breed(1700m、WI4 M3)。なお、昨年11月号にも記したように、リッチーは2代前の、スウェンソンは現AAC(アメリカ山岳会)会長で、共に50代のベテラン。

●K7西峰(6615m)北西稜初登攀

ネイツ・マルチッチ(26)とルカ・ストラザール(22)のスロヴェニア・ペアが、昨年9月6日～9日、標高差1600mのルートをアルパイン・スタイルで初登攀した。奇しくもこの山の西面カベリ氷河側は、1976年福岡GCC隊(成末洋介隊長)や82年鵬



K7西峰頂上のスロヴェニア・ペア。

翔山岳会隊(保科正之隊長)が試みて果たさなかったルートである。西峰は南西面チャラクサ氷河側から登られているが、カベリ氷河側が登られたのはこれが初めて。ルート名はDreams of Golden Caves(1600m、VI A2 M5)。

●トーレ・エガー(2850m)南壁新ルート



トーレ・エガーのノルウェイ・ペア。
左が亡くなったオルトゥン。

12月25日～26日、ノルウェイのビヨン=エイヴィン・オルトゥンとオーレ・リードが、セロ・トーレとのコルから立ち上がる南壁に新ルートを拓いた。高距350mと短い、ハングしたライムアイスにおおわれており、アイスクライミングの分野に新たな地平を切り開いたと高く評価された。ルート名はVenas Azules(350m、6b+ A1 AI6)。なおオルトゥン(45)は帰国後、リーセ・フィヨルドの壁に新ルート開拓中、巨大な岩のブロック崩壊に遭って亡くなった。

●ロベール・パラゴ(功労賞)

1927年生まれ。1953/54年、当時ヨーロッパ以外では初の大岩壁登攀となったアコンカグア南壁に参加して初登攀。55年にアルプスでグラン・カピュサン北壁、56年カラコルムでムスターグ・タワー(第2登)を記録。62年ネパールでジャヌー初登頂、66年ペルーのワスカラン北峰北壁、71年マカルー西稜の隊長を務めて初登攀に成功。グループ・ド・オート・モンターニュ(GHM)とフランス山岳/登攀連盟(FFME)会長を歴任した。

著書に『マカルー西稜』(ヤニック・セニユールとの共著)、『ザイル仲間の20年』(リュシアン・ベラルディニとの共著)があり、いずれも邦訳されている。



去る1月27日に富士山の文化遺産としての推薦書をユネスコに提出された。秋にはユネスコの諮問機関イコモスによる現地調査があり、来年の世界遺産委員会において世界遺産登録の可否が決まる。また、国民や県民に富士山への理解と関心を深め、美しい景観や自然・歴史・文化を保全し、後世に引き継いで行く日として2月23日を山梨県・静岡県では「富士山の日」と定めた。

昭和37年7月7、8日に「第一回・富士山をきれいにする運動」が実施され、山梨岳連も150人が参加して、一泊で8合目以上を清掃した。以後38年に150人、39年には180人が参加して清掃活動がスタートした。沢山の重いゴミを背負って砂走りを下った時の苦しさや山頂で静岡岳連隊と楽しく交換し、お互いを励ましあったことも思い出される。目を覆うほどの状況からの清掃活動だったが、多くの人たちが参加し、皆が呼びかけて、永い年月頑張ってきた。今も多くの団体によって続いている。

その結果、行政や山小屋の尽力で懸案のトイレも快

適になり、クリーン作戦のたゆまぬ努力は見違える富士となった。望んでいた崇高で美しい姿が現実となり、感慨深い。山頂や登山道以外の斜面を受け持った山梨岳連の果たした役割は大きかったと思う。

地元に住んでいると、何処に行っても富士山の有る風景は当たり前になり、さほどの感銘は受けないが、特に富士を取りまく展望台の道志山塊、御坂山塊、天子山塊等の稜線から望むと、やはり富士は富士で、さすがに胸に迫る大きな感動が湧き上がる。なかでも山容が良く見え、富士五湖が望める御坂山塊には、かつて駿河と国中(甲府盆地)を結んだ峠道が幾つもある。御坂峠、新道峠、大石峠、鍵掛峠等、いずれの峠からも富士の姿は均整が取れて美しい。

最も推奨出来る展望台として、冬の大石峠を挙げたい。甲斐の古道の一つ若彦路は芦川から大石峠を越えて河口湖の大石に至る。峠は明るい草原で遮るものは無く、目前に圧倒的に迫る、冬富士の山容は他を抜きんでている。

大石峠には、上芦川から約2時間30分ほどミズナラの林をジグザグ登ると峠に着く、峠から西へ1時間30分で節刀ヶ岳に、東は2時間程で御坂山塊の盟主黒岳に行ける。(山梨県山岳連盟顧問 内藤順造)

お国自慢の山⑥

笠ヶ岳 2898 m



里から望めるこの秀麗な姿の山は、古くから人々の関心を引いて当然であったろう。

登頂の記録が残っているのは、天明2年(1782)高山宗猷寺の南裔楚雄禅師の登頂である。文政6年(1823)には播隆が登拝路を敷設し、翌文政7年信者66名を伴って登頂し、沿道と頂上に仏像を安置した。播隆はこの時頂上から槍ヶ岳を望んで、その開山を志すことになる。

そして明治27年(1894)、ウエストーンが3度目にして念願の登頂を果たしている。

『日本百名山』の著者深田久弥は笠ヶ岳の項で、「多くの笠の筆頭に挙げられるのは、北アルプスの笠ヶ岳である。そしてこの山ほどその名に忠実なものはない。どこから望んでも笠の形を崩さない。遠い立山から見ても、近い穂高から見ても、山麓の平湯から仰いでも、飛騨の高山から眺めても、すぐそれと指摘できる、文字通りの笠ヶ岳である。」と書いているが、この山の

形に対する賛辞はこれに尽きていると思う。

その独特の美しい容姿、人気のある槍や穂高から少し離れて孤高を保っていることなどからこの山のファンは多く、現在は「日本百名山詣で」の中高年登山者で賑わいを見せている。

昔から岐阜県山岳連盟傘下(現在18団体)の団体に四季を通じてよく登られてきた山で、特に地元の飛騨山岳会は、昭和30年代から40年代にかけて東面穴毛谷の岩場のルート開拓、西面の笠谷をはじめとする各谷の調査を行い、笠ヶ岳の従者ともいえる錫杖岳にも足跡を記している。

山頂を他県と共有しない独立峰では岐阜県の最高峰であり、「おらが国の山」として岐阜県山岳連盟が自慢したい山である。

(岐阜県山岳連盟副会長 木下喜代男)

大韓山岳連盟創立50周年記念式典

大韓山岳連盟(KAF, 会長李仁偵)は、4月23日、ソウル市光化門世宗文化会館世宗ホールで創立50周年記念式典を開催。創立以来、山岳連盟を輝かせた50人を選定し、表彰された。

この日の行事では、KAFが作詞、作曲した"我々は、登山家"という曲の発表会があり、"KAFビジョン声明"と"中長期発展計画"も紹介された。

1962年4月23日に設立されたKAFは、1970年に国際山岳連盟に加入、1999年体育会加盟団体となった。2012年4月現在、全国17の市・道と海外2つの連盟の傘下に3千単位の山岳会が活動している。

式典には、KAF中央連盟と各地方の連盟関係者をはじめチェ・グァンシク文化体育観光部長官、朴容晟大韓体育会長、山林庁長、国立公園管理公団理事長、



本協会の神崎忠男会長、田中文男、国澤鎮雄顧問などが出席。他にアジア山岳連盟加盟の日本勤労者山岳連盟、中国、ネパール、モンゴル、キルギス、香港、台湾やスイスなどから約600人が参加し、盛況だった。

(国際委員会 佐伯尚幸)



平成24年度4月(24年4月)常務理事会議事録

日時 平成24年4月12日(木)
17:30~21:00

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長、内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、高山、水島、北山、相良、谷口、永井、堀井各常務理事

委任 寺内常務理事
(18名中17名出席)

1. 専門委員会動静

3月常務理事会以降
(3月2日~4月11日)

[報告]

(1) 指導委員会

3月5日(月) 出席者9名

ア 2月常任委員会議事録確認

イ 平成23年度評議員会報告

・未組織登山者への指導員制度の扱いについて

ウ 2月常務理事会報告

・AC及びSC指導者の追加認定承認について

エ 氷雪技術研修会(大山)報告

オ ジュニア・普及情報交換会報告

カ ハイキング・リーダーについて

・2/25にキックオフ・ミーティングを開催

キ SC養成講習会(東京地区)について

・8/18~19, 8/25~26, 昭島市SCで検討中

ク 中国ブロック競技研修会報告

ケ 氷雪技術研修会

(富士山、3/18~20)について

コ B級主任検定員について

サ 指導・競技委合同ミーティングについて

シ 岳連個人会員のAC指導者認定申請について

(2) 国際委員会

3月13日(火) 出席者8名

ア 第50回海外登山技術研究会反省について

イ 平成24年度国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会について

・6/23(土)~24(日) 神奈川大学箱根保養所

ウ 第51回海外登山技術研究会について

・会場：八王子大学セミナーハウスの予約完了

エ 第7回山岳スキー競技選手権大会の協力について

・佐伯、大宮、藤田常任委員が参加
オ 第4回ウィンタークライマーズミーティングの報告

(3) 競技委員会

3月15日(木) 出席者17名

ア 3月常務理事会報告

イ 第2回理事会報告

ウ 臨時総会報告

エ 国体ブロック別研修会報告

・東北ブロック

(秋田、11/26~27)

・北海道ブロック

(深川市、3/3~4)

・九州ブロック(沖縄、3/3~4)

・近畿ブロック

(和歌山、3/10~11)、C級審判員認定の1名補講の日程調整

オ ボルダリングジャパンカップ報告

・2012年ボルダリング日本代表選手10名を選考

・参加者：男子71名、女子39名。

(10課題同時進行)

カ 2012WC印西大会の進捗状況について

・大会実行委員会打合せ(3/7)

キ 第7回山岳スキー競技選手権大会について

ク 競技委員総会について

(4/1、日本青年館ホテル)
 ケ 後催県の準備状況について
 ・岐阜県：第1回基準会議(4/22)
 ・東京都：2月の競技運営員特別認定で170名を認定
 ・長崎県：本国体＝平成26年10月17日～19、リハーサル大会＝平成26年6月7日～8日、リード＝長崎県立大村高校、ボルダリング＝大村公園横特設会場
 ・和歌山県：第2回現地視察(3/26)
 コ 岐阜国体の審判長、副審判長、中央総務等の最終確認と変更について
 ・審判長＝松田、副審判長＝寺内、中央総務＝森(庄)、西原、土屋
 ・L主任＝高橋、L県外副主任＝佐藤、B主任＝山本、B県外副主任＝中村
 ・近県審判員(長崎)
 ・Lチーフルートセッター＝木村、Bチーフルートセッター＝東
 サ 来年度からの審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について
 シ 国体施設基準の見直しについて
 ス 国体競技規則の変更点について
 セ 競技委員会の改編について
 ソ 競技委員会メーリングリスト、都道府県競技委員長メーリングリストの管理人について
 (4)自然保護委員会
 3月22日(休) 出席者14名
 ア 2月常任委員会議事録の確認
 イ 平成23年度第2回理事会及び臨時総会の報告
 ・再生可能エネルギー社会の取り組みについて提言があった
 ウ コカコーラ・クリーンキャンペーン(百名山めぐり)について
 エ リポビタミンD・クリーンキャンペーンについて
 オ 「入山者ルール・山岳憲章」(山のECHO主催)検討会報告
 カ 平成24年度自然保指導員登録状況について
 キ 平成24年度自然公園指導員功労表彰の候補者推薦について
 ・百瀬尚幸氏(長野)の推薦を承認

ク 故青木敏雄氏を偲ぶ会(4/7)について
 ケ 平成24年度自然保護委員総会(北海道)について
 コ クリーン・キャンペーンの受入について
 サ 常任委員研修会について
 ・6/23～24、湯の丸高原
 シ 自然保護指導員の減少対策について
 (5)遭難対策委員会
 3月28日(水) 出席者7名
 ア 労山山行管理システムについて
 イ 個人会員について
 ・個人会員の山行管理と指導員等の資格付与について
 ウ 日中韓登山技術交流について
 エ 指導委員会・ハイキングリーダーについて
 オ 平成24年度遭難対策委員総会について
 ・6/23～24、つくばレイクサイドホテル
 カ 遭難対策常任委員研修会について
 ・5/12～13、上尾市スポーツ総合センター
 キ 常任委員の若返りについて
 ク レスキュー協議会の人事異動について
 (6)ジュニア・普及委員会
 3月29日(木) 出席者6名
 ア 平成24年度中高年安全登山指導者講習会について
 ・金田正樹講師依頼の件
 ・講習会内容のビデオ収録と各岳連への配布の検討
 イ 「ジュニア登山教室 in 立山」の準備について
 ・チラシ、ポスターの制作と配布の件
 ウ 岳連主催の少年少女登山教室アンケート調査実施について
 エ 個人会員アンケートの見直しについて
 (7)広報委員会
 3月29日(木) 出席者6名
 ア 『登山月報』4月号の編集について
 ・平成23年度第2回理事会報告

・平成23年度臨時理事会報告
 ・BMC Winter Climbing Meet 報告
 ・Mountain World
 ・日本の山岳切手シリーズ⑥
 ・お国自慢の山④
 ・韓国山岳スキー選手権大会報告
 ・千葉岳連創立60周年祝賀会
 ・関東地区岳連総会報告
 ・レスキュー講習会報告
 ・JMA、編集後記
 イ 『登山月報』のHP掲載について
 (8)指導委員会
 4月2日(月) 出席者10名
 ア 3月常任委員会議事録の確認
 イ 氷雪技術研修会の報告
 ウ 常任委員打合せ(3/31)の報告
 ・B級主任検定員のロープワークの基準について
 エ ハイキングリーダー小委員会報告
 オ SC養成講習会(日山協主催、岳連主管)について
 ・東京 8/18～19、8/25～26
 ・山口 8/4～5、8/11～12
 カ 競技・指導合同会議について
 キ 資格再登録システムについて
 ク 平成24年度指導員総会について
 ケ 指導者認定申請について
 (9)国際委員会
 4月10日(火) 出席者7名
 ア 平成24年度国際委員総会兼海外遭難対策研究会について
 イ 平成24年度常任委員候補者について
 ウ 第51回海外登山技術研究会の内容について
 エ 平成25年度の研究会のあり方について
 2.その他の重要事項
 (3月2日～4月11日)
 [報告]
 (1)福島県山岳連盟前会長・本会参与の吉田元氏逝去、享年75歳。
 3月3日(土)
 (2)中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会 3月3日(土)～4日(日)



守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)

詳しくは → www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

- 於：広島・神田荘 神崎会長
- (3)九州ブロック競技研修会
3月3日(土)～4日(日)
於：沖縄・那覇市沖縄県体育協会
高山常務理事、目次常任委員
- (4)北海道ブロック競技研修会
3月3日(土)～4日(日)
於：北海道・深川
寺内常務理事、山本常任委員
- (5)近畿ブロック競技研修会
3月10日(土)～11日(日)
於：和歌山市北コミュニティセンター 松田、西原、安形常任委員
- (6)平成23年度第2回理事会
3月10日(土) 於：主婦会館プラザエフ 神崎会長ほか
- (7)平成23年度臨時理事会
3月11日(日) 於：主婦会館プラザエフ 神崎会長ほか
- (8)日本山岳文化学会創立10周年記念祝賀会 3月11日(日)
於：アルカディア市ヶ谷
神崎会長
- (9)スポーツ安全協会評議員会
3月13日(火)
於：東海大学交友会館 田中顧問
- (10)「入山者ルール」及び「山岳憲章」
制定検討会 3月16日(金)
於：ニュー新橋ホール
内藤副会長、石倉常務理事
- (11)駐日ネパール大使表敬
3月16日(金)
於：ネパール大使館 神崎会長
- (12)千葉県山岳連盟創立60周年記念
祝賀会 3月17日(土)
於：センシティタワー
神崎会長ほか
- (13)JOC総務委員会 3月21日(水)
於：岸記念体育会館2階理事・監
事室 尾形専務理事
- (14)「山の日」制定協議会
3月21日(水)
於：岸記念体育会館
尾形専務理事
- (15)消防防災ヘリコプターによる山
岳救助のあり方に関する検討会
3月23日(金) 於：経済産業省
西内常務理事
- (16)和歌山国体視察 3月26日(月)
於：和歌山県 高山常務理事

- (17)日体協評議員会 3月28日(水)
於：グランドプリンスホテル新高
輪 内藤副会長
- (18)第14回秩父宮記念スポーツ医・
科学賞表彰式及び受章祝賀会
3月28日(水) 於：グランドプリ
ンスホテル新高輪 内藤副会長
- (19)平成24年度競技委員総会
4月1日(日) 於：日本青年館ホテ
ル 神崎会長、内藤副会長、高山、
北山、寺内常務理事
- (20)故青木敏雄さんを偲ぶ会
4月7日(土) 於：京成労働組合会
館3Fホール 石倉常務理事ほか
- (21)第7回山岳スキー選手権
4月7日(土)～8日(日)
於：長野・桐池高原
神崎会長、八木原副会長、寺内常
務理事
- (22)駐日ネパール大使晩餐会
4月10日(火) 於：ネパール大使
公邸 神崎会長、尾形専務理事

3.議事

- (1)平成23年度3月常務理事会議事
録の承認について(承認)
- (2)平成23年度第2回理事会議事録
の承認について(承認)
- (3)平成23年度臨時総会議事録の承
認について(承認)
- (4)平成24年度理事会・総会の開催
について(承認)
- (5)定款変更(案)の一部変更及び役
員報酬規程(案)について
(提案の役員報酬規程(案)は、次回
常務理事会で再審議)
- (6)倫理規程・懲戒規程(案)につい
て
(提案の倫理規程及び懲戒規程(案)
は、次回常務理事会で再審議)
- (7)アジア選手権の派遣選手と代表
選手の派遣条件について(提案通
り承認)
- (8)2020年オリンピック・パラリン
ピック競技大会東京招致に向けた
支援決議について
(文面を見直して提出することで

寄贈図書

寄贈本	山梨県警察本部 生活安全部地域課	『平成24年度 登山情報』
	日本体育協会・日本オリンピック委員会	『日本体育協会・日本オリンピック委員会100年史』について
雑誌	富山県山岳遭難対策協議会	『山嶺』平成23年の山岳遭難防止活動
	日本山岳会	『JAPANESE ALPINE NEWS』Vol.13 2012
会報	山と溪谷社	『諸国名峰恋慕』手塚宗求 著
	長野県教育委員会	『平成24年 春山情報』
	東京新聞社	『岳人』No.779
	山と溪谷社	『山と溪谷』No.925
	健康・体力づくり事業財団	『健康づくり』4月号 No.408
	三峰山岳会	『岩つばめ』No.338
	兵庫県山岳連盟	『兵庫山岳』538号
	熊本国際観光コンベンション協会	『Welcome』2012春
	(財)尾瀬保護財団	『はるかな尾瀬』Vol.18
	横浜山岳会	『山』958号
	(財)京都府体育館	『京都府体育時報』No.109
	国立スポーツ科学センター	『JISS NEWS LETTER Vol.22』
	(財)全国高等学校体育連盟登山専門部	『平成23年度登山部報』No.55
	(公財)全日本ボウリング協会	『JBCnews』第485号
	福岡コンベンションセンター	『FCCnews』Vol.45
	大阪府山岳連盟	『山岳おおさか』No.192
日本武術太極拳連盟	『武術太極拳』No.270	
富山県コンベンションセンター	『とやま夢大陸』Vol.88	
大韓山岳聯盟	『大山聯』Vol.160	
スクールパートナーズ高校生新聞事業部	『高校生新聞』第195号	
日本勤労者山岳連盟	『登山時報』2012 5月	
大崎企業スポーツ事業研究助成財団	『企業スポーツ』2012 SPRING	
明治大学山岳部炉辺会	『炉辺通信』No.171	
(公財)国土緑化推進機構	『ぐりーん・もあ』第57号(春号)	
日本山岳遺産基金事務局	『日本山岳遺産ニュース』Vol.3	
(公財)埼玉県体育協会	『スポーツ埼玉』258号	
(公)日本山岳会	『山』No.803・目録(751号～800号)	
東京野歩路会	『山嶺』No.986	
やまびこ山想会	『やまびこ』第141号	
Korean Alpine Club	『山』2012.3/4 vol48 No.223	

- 承認)
- (9) 国体における監督への公認スポーツ指導者資格義務付けに係る対応について
(何れも「対象にする」で承認)
- (10) 報告事項
ア 会計月次報告
イ 平成24年度自然公園指導員自然環境局長表彰及び指導員表彰候補者の推薦について
ウ 尾瀬国立公園の自然環境・生態系保全を継続的・安定的に行うための意見書について
エ 広告協賛募集の協力について
オ 長野県山岳協会に係る問題の経過報告

4. 役員等の派遣について

- (1) 平成23年度神奈川県山岳連盟代議員会 4月17日(火)
於：県民活動サポートセンター4F 神崎会長
- (2) WC 印西大会実行委員会
4月18日(火) 於：印西市 高山、北山常務理事
- (3) 山岳団体自然環境連絡会
4月18日(火) 於：労山事務所 石倉常務理事
- (4) UIAA 登山委員会
4月20日(金)～22日(日)
於：セルビア・ベオグラード 青山常任委員
- (5) 岐阜国体第1回基準会議
4月22日(日) 於：岐阜市 高山常務理事
- (6) 大韓山岳連盟創立50周年記念祝賀会 4月23日(月)
於：Seoul Sejong Hall 田中、国澤顧問、神崎会長
- (7) 平成24年度日体協加盟団体事務

- 局長会議 4月23日(月)
於：国立オリンピック記念青少年総合センター 尾形専務理事
- (8) 会計監査 4月23日(月)～24日(火) 於：岸記念体育会館 内藤副会長、福田、岡本両監事、尾形専務理事、相良常務理事
- (9) 2011年度ミズノスポーツメントール賞表彰式 4月25日(火)
於：グランドプリンスホテル新高輪 尾形専務理事
- (10) 「山の日」制定協議会
5月8日(火) 於：労山事務所 尾形専務理事
- (11) UIAA 理事会
5月11日(金)～13日(日)
於：ハンガリー・ブダペスト 田中顧問、笹生常任委員
- (12) 遭難対策常任委員研修会
5月12日(土)～13日(日)
於：埼玉上尾市スポーツ研修センター 西内常務理事
- (13) 明治大学体育会山岳部創部90周年記念祝賀会 5月26日(土)
於：明治大学リバティタワー23F 神崎会長、尾形専務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

- (1) 「資源回収でつなぐ百名山めぐり」の後援名義について(承認)
- (2) 第4回ジャパンユースカップの後援名義について(承認)
- (3) 「山の文化」地方講演会の後援名義について(承認)
- (4) 「2012山われらをめぐる世界」の後援名義について(承認)
- (5) 百万人の山と自然「安全のための知識と技術 公開講座」の後援名義について(承認)
- (6) 「登ろう！日本一高い 富士山へ

(被災高校生)」の後援名義について(承認)

6. 報告

- (1) 自然保護指導員の承認
なし
- (2) 指導員の認定承認
① SC 指導員
岩本郁夫、南竹成己、平澤隆雄、松井清明、尾形保充、牛澤敬一、北島惣一郎、蛭川信一、樋口義郎、平川直徳、武末良樹、実広けい子、川村明久、野村和喜、加世田淳、河野健治、田北篤、前村裕治、原口政則、佐藤壽志、加藤晃一(以上、福岡21名)
- ② SC 上級指導員
なし
- ③ アルパイン指導員
川畑公人(石川)、鈴木兼治(岡山)、以上2名
- ④ アルパイン上級指導員
中村まさ子、前田武人、山田千代子(以上、石川)、益田敏彦(北海道)、寺崎良夫、菊澤眞一郎(以上、福岡)、以上6名

編集後記

大型連休の前半、久しぶりに山岳会の合宿に参加して白馬主稜に入って来た。

人気ルートらしく多数のパーティが入山していた。気温が高く雪は腐っていたがなんとか頂上へ抜け、翌日大雪渓を下山した。連休後半5月4日に同じ山域で、九州のパーティ6名の遭難の報に触れ、改めて気象の急変に、対応出来る準備の大切さを実感した。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第518号

定価 100円(送料別)
予約年間 1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 平成24年5月15日
発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 上野原トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭